

競技注意事項

1 競技規則について

2025 年度（公財）日本陸上競技連盟競技規則、並びに本大会申し合わせ事項による。

2 招集について

- ①第3ゲート（1500mスタート地点後方）にトラック競技出場者の招集所を設置する。
トラック競技出場者は招集開始時刻に集合すること。
- ②跳躍競技は現地招集とする。投てき競技は、投てき場にて現地招集とする。
- ③招集開始及び完了時刻は競技日程に記載する。
- ④招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を棄権したものとして処理する。
- ⑤招集完了5分前までに招集所で待機し、最終点呼を受けること。その際アスリートビブス（ナンバーカード）、競技用靴等の点検を受けること。
- ⑥リレーに出場する競技者で、同一時間に他の種目と兼ねて出場する者は、競技者係及び当該審判主任に申し出て了解を得ること。

3 アスリートビブス（ナンバーカード）について

- ①アスリートビブス（ナンバーカード）は胸と背に1枚ずつ確実につけること。
女子選手のセパレートタイプのユニフォームについては、ナンバーが審判から見えるように4ヶ所で確実に留めること。
ただし、跳躍競技に出場する競技者は、胸または背に1枚つけるだけでよい。
- ②トラック種目では、腰ナンバーを右腰後方につけること。
腰ナンバーは招集所にて配布するので、競技者各自が持ち出し、競技終了後はフィニッシュライン前方のゲート2で回収する。
- ③ランニングシャツの形状により、裾を外に出して出場する場合は、必ず腰ナンバーが見えるようにすること。

4 競技場で使用する競技用靴について

- ①スパイクピンの長さは、9mm以内とする。ただし、走高跳・やり投は12mm以内とする。
いずれの場合もスパイクピンの数は、11本以内とする。ピンの形状は全天候舗装の競技場で使用できる物とし、土のグラウンド用のピンを使用することは禁止する。
- ②靴底の厚さは、トラック競技・フィールド競技ともに20mm以内とする。ただし、競技場内で行う競歩競技は、道路競技と同じ40mm以内とする。
- ③靴底の厚さの検定は必ず実施するものではないが、招集所審判長およびトラック・フィールド各審判長の判断により、検定を実施する場合がある。
- ④シューズについては、WA（世界陸連）の認証品リストを確認の上、使用すること。

【WA（世界陸連）Web サイト；[LIST OF APPROVED ATHLETIC SHOES](#)】



- ⑤砲丸投・円盤投・ハンマー投において、短距離用スパイクシューズのピンを取り外して使用することは禁止する。

5 棄権について

出場種目を棄権する場合、本競技会においては特に申し出なくとも良い。
招集完了時刻に競技者が競技会場に来ておらず、同一時刻に他種目に出場する旨の連絡もない場合は、棄権したものとする。

6 練習について

- ①練習に際しては競技役員の指示に従って安全に練習すること。
- ②練習会場の開放時間・使用場所については、栃木陸協 Web サイト等でも別途提示する。
- ③練習会場は主に第2陸上競技場を使用し、別に定める注意事項に従って、練習を行うこと。
- ④第2競技場のメインスタンド雨天走路は、ジョギングと体操のみ使用を許可する。
第2競技場のバックスタンド外側の雨天走路は、ドリルや流し等の使用を許可する。
雨天走路は一方通行で使用する。
- ⑤第2競技場の利用は17時頃までとし、その後の整理運動等はカンセキスタジアムで行う。
- ⑥8時から競技開始10分前までは、カンセキスタジアムでの練習を許可する。トラックの使用区分は別に定める。跳躍・投てきピット、芝生フィールド内での練習は禁止する。
- ⑦カンセキスタジアムのバックスタンド雨天走路は、8時から使用可とする。
- ⑧カンセキスタジアム1階管理通路および2階の外周での練習は不可とする。
- ⑨投てき場隣のクレイグラウンドを投てき競技出場者用の練習場所として開放する。ジョギングや流し、MB投げなどの練習は、周囲に注意して実施すること。投てき用具（砲丸・円盤・ハンマー・やり等）を用いた練習については禁止する。投てき用具を投げる練習は、競技開始直前の公式練習のみとする。
- ⑩総合運動公園内園路はジョギング程度なら可とする。ただし集団での走行、リレーのバトンパスをしながらのジョギング等は禁止とする。選手・関係者及び公園の一般利用者の安全確保のため、ジョギング以外の練習（ハードルやボール等の使用）は禁止。

7 競技者の入退場について

- ①招集完了後の競技者がスタジアム内に入場する際は、3ゲートからの入場とする。
- ②スタジアム内の雨天走路への入場は、3・4ゲートからとし、メインスタンド1階中央からの入退場は禁止とする。入退場の際は競技の妨げとならないように注意する。
- ③スタジアム内競技場所・雨天走路への出入りは競技者のみ許可する。付添人や指導者、保護者等の入場は不可とする。
- ④トラック競技に出場する競技者は、フィニッシュ後はバックストレート側を通ってスタート地点に戻る。フィニッシュ後にメインスタンド前を通らないこと。
- ⑤フィールド競技者も他の競技の妨げとならないよう、係員の指示に従うこと。

8 競技について

- ①トラック競技は全てタイムレースで実施し、複数ラウンドを設けない。
フィールド競技（走高跳・棒高跳以外）は3回の試技までの実施とする。
- ②トラック競技は、不正スタート1回で失格とする。
- ③長距離種目において競技運営上、著しく遅れた選手や体調不良で競技続行が不可能と判断される競技者に対し、審判長が競技を中止させる場合がある。
- ④投てき競技はすべて、投てき場で実施する。
- ⑤各競技の結果はスタジアム大型スクリーンで発表し、Web上の速報サイトにも掲載する。

9 トラック競技の組・走路順、フィールド競技の試技順、リレーについて

- ①トラック競技の組・走路順、フィールド競技の試技順は主催者が抽選し、プログラムに示すので、審判員の指示に従うこと。
- ②リレー競走に出場するチームはリレーオーダー用紙を作成し、第1組目の招集完了時刻の1時間前までにTICに提出する。リレーオーダー用紙はTICで配布する。
また、事前に栃木陸協 Web サイトにもリレーオーダー用紙を掲載する。
- ③リレー競技に出場するチームは、原則として同一ユニフォームで参加しなければならない。
ただし、同一のチームと判別可能であれば、形状が異なるユニフォームを着用しても良い。

10 跳躍競技（高さ・踏切板の距離）について（※審判長の判断で、変更することもある。）

種 目		練習の高さ	競技中の高さ
走高跳	男子	1.50/1.85	1.55～1.60～1.65～1.70～1.75～1.80・・・
	女子	1.15/1.55	1.20～1.25～1.30～1.35～1.40～1.45・・・
棒高跳	男子	2.70/4.00	2.80～3.00～3.20～3.40～3.60～3.70～3.80・・・
	女子	1.70/2.50	1.80～2.00～2.10～2.20～2.30～2.40・・・

- ①上記以後の高さについては、跳躍審判長の指示による。
- ②雨天の際は協議の上、高さを変更することもある。
- ③三段跳における踏切板の距離については、男子 11m・女子 9m とする。

11 競技用器具について

- ①競技に使用する用器具は、検査を受け合格したものについてのみ使用できる。ポールおよびやりの検査は、招集後現地にて行う。
- ②検査で合格したやりについては、主催者にて預かり、主催者のものとして使用する。
- ③リレーや走高跳で使用するマーカー（テープ）は、競技者が各自で準備すること。

12 その他

- ①T I C（Technical Information Center）をスタジアム 2 F の A ゲート内に設置する。
T I C では、参加団体受付、オーダー用紙の取扱い、競技に関する抗議の受付、プログラム訂正の受付、遺失物保管などの業務を行う。
- ②競技中の傷病などについては、主催者が応急手当をするが、以後の責任は負わない。
- ③各チームのスタジアム内待機場所については、栃木陸上競技協会が指定した場所とする。
コンコース内にテントを設営することは認めない。また、競技場外の公園敷地でのテント設営は一切禁止する。
なお、各チームベンチとして自由席・雨天練習場・更衣室等を占領してはならない。
- ④貴重品をはじめ物品の管理は、各自・各チームの責任の下で行う。
- ⑤スタジアム内 1 F のトイレは、100m スタート付近の正面スタンド内トイレを使用すること。
出入りについては 100m スタート付近からの出入りに限定する。
- ⑥更衣室については、男女ともスタジアム 2 F トイレ内の更衣スペース等を使用する。
また第 2 競技場の更衣室も使用可とする。
- ⑦スタジアムでの横断幕設置は、観客席最前列の手すりにひもで縛って設置すること。ただし、メインスタンドおよび 1～4 ゲート上の設置は許可しない。また、競技の妨げとなる状態で設置しないこと。横断幕の縦の長さが長く、競技場内の競技者の移動や競技の妨げになる場合には、大会運営本部の判断で撤去する場合がある。なお、のぼり旗は全面禁止。
- ⑧ユニフォームやバッグ等の商標に関する規定については、日本陸連の指針に則った対応とする。（下記 Q R コードから閲覧できる日本陸連公式サイトを参照）

競技会における広告および展示物に関する規程〔国内〕

[05_101632.pdf](#)



13 災害時の避難について

会場責任者の判断により避難の放送が入るので、避難誘導係の指示に従って落ち着いて行動すること。